



2010施設公開を開催しました

4月17日(土)に、農業センター本館や試験・研究圃場を会場に、試験研究成果等のパネル展示、園芸教室、顕微鏡操作、農家有志による野菜・果樹苗の販売コーナー、ヒヨコとのふれ合いコーナー、スタンプラリー、丸太切り、農業機械の展示等を実施しました。

毎年、開催している施設公開は、東京都科学技術週間のイベントとして実施しており、4月18日「発明の日」を含む一週間を科学技術週間としています。今年度の全国統一標語は、「発見したいな まだ誰も見つけていないこと」となっています。

今年の施設公開で子供たちに一番の人気は、ヒヨコとのふれ合いコーナーでした。絶えず子供たちが集まり、日頃、触れたことないヒヨコを抱きかかえる姿が微笑ましく、元気で明るい声が響きわたっていました。

試験研究成果報告については、本館でパネルや標本等を展示し、水産センターの成果展示コーナーや小笠原総合事務所植物防疫コーナーを加え、充実した展示となりました。

試験・研究圃場を中心に実施したスタンプラリーは、約150名の参加がありました。お子さんには難しい問題があったかもしれませんが、多くの方が全問正解となりました。次回からは、植物防疫コーナーからも問題が出される予定です。楽しみにしてください。

園芸教室では、「パッションフルーツの挿木体験」を実施しました。本館展示コーナー

内に顕微鏡を設置し、自分で切り取った植物を顕微鏡で観察し、その画像を印刷する体験も行いました。観察する植物を換え何度も顕微鏡に向かう子供たちもあり、未来の科学者の誕生も夢ではないかも知れません。



写真1 顕微鏡観察コーナーの様子

また、JA・農家の皆様の協力により野菜苗や果樹苗の販売コーナーも活気のあるブースとなりました。

最後になりますが、ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた関係機関の皆様に、職員一同、深く感謝と御礼申し上げます。〈金子〉

農業者セミナーのお知らせ

意欲ある農業者を対象とした農業者セミナーを開催します。詳細は、別途お知らせいたします。〈近藤〉

土壌診断のお知らせ

農家を対象に、畑の土壌診断を行います。提出期限は7月、分析は8月に行う予定です。詳細は、別途お知らせいたします。〈佐藤〉

～ 平成21年度の研究成果 ～

今年2月18日に母島で、19日に父島で「成果報告会」を開催しました。生産者および関係機関から母島で14名、父島で12名の参加者が集まり、多くの質問や要望を受けました。以下に研究概要を紹介します。

1. 菊池レモンの鮮度保持技術（近藤）

収穫後、鮮度保持剤「シトラスキープ」を果面に塗布し、保存袋「P-プラス」に包装して8℃で貯蔵することで約3カ月間、果実を緑色の状態で保持することができる。

2. アテモヤの生産技術開発（馬場）

11月以降に収穫された果実に裂果は見られなかった。夏季剪定を行い、収穫期をずらすことで品質の向上を図ることができる。

3. 低温貯蔵庫によるパッションフルーツの長期貯蔵試験（宗）

8℃設定で1カ月間貯蔵した場合、氷感庫は減量歩合およびシワ果の割合で既存冷蔵庫より優れており、長期保存に有望である。

4. 小笠原諸島固有種等遺伝資源の保護

（宗）

固有種8種および広分布種4種で増殖に成功した。固有種10種および広分布種1種に、新たな13病害を見出した。モクマオウの伐採株に除草剤を注入すると萌芽抑制効果があり、モクマオウ林に固有種等5種を移植すると1年後の生存率は80%以上である。

5. 病害虫防除試験の取組み（近藤）

環境負荷の少ない農薬「スラゴ」をアフリカマイマイの防除として使用すると食害防止効果があった。また、パッションフルーツ東アジアウイルスを検定した結果、父・母島で感染株はみられなかった。

6. 農業経営・意向調査の結果（谷藤）

小笠原村の農業経営構造は、経営規模が零細、かつ所得階層も低位にあるが、農業従事者は60歳未満が多い。詳細は次頁参照。

7. 今年度の野菜の栽培情報（菊池）

ミニトマトの有望品種の「甘っこ」は、従来品種の「ネネ」より収量性が高いことに加え、障害果の発生も少なく、糖度も同等以上である。また、輸送中の裂果や重量の減少が少なく、輸送性や日持ち性も優れている。

8. 超音波画像による牛の早期妊娠診断

（森本）

超音波を利用して子宮内部を画像化し、牛の妊娠診断を行った結果、従来の触診よりも有効である。また、繁殖疾患の診断、分娩前の雌雄判別に利用できる。



写真2 成果報告会の様子

詳細は近日中にホームページに掲載します。

検索 小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 試験研究成果概要

また、3月に父・母島にてパッションフルーツ栽培の先進地である奄美大島の視察報告会を行いました（宗）。 <宗>

～ 農業経営・営農意向調査の結果 ～

平成 21 年 9 月に実施しました小笠原村農業経営・営農意向調査の結果についてお伝えします。

この調査は、平成 21 年 12 月に改訂した「小笠原村農業基本構想」の基礎データや農家の普及指導の参考とするため、村が主体となって実施し、農業センターで集計・分析しました。調査対象は 61 戸で 32 戸から回答がありました。

1. 農地の状況

回答のあった経営体の農地の耕作状況は、耕作地が 1,851 a (66%)，うち自作地は 1,201 a，借入地は 650 a となっています。また、不作付地は 928 a (34%) となっています(図 1)。自作・借入別では、自作地が 1,972 a (70%)，借入地が 837 a (30%) となっています。

経営体の経営耕地は、50 a～1ha 層が最も多く(10 戸)，次いで 10～30 a (9 戸) となっています。経営体 1 戸あたり平均経営耕地面積は 57.8 アールとなっています。

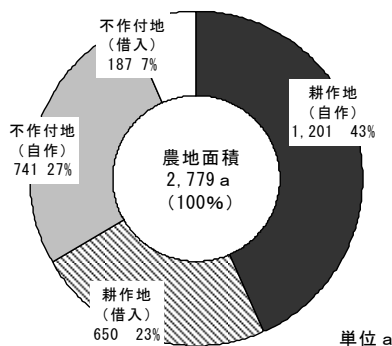


図 1 農地の利用状況

2. 労働力の状況

回答農家の自営農業従事者数は 60 人，雇用農業従事者数は 12 人，1 戸あたりの自営

農業従事者は 1.9 人です。

また、農業従事者のうち 60 歳未満が 56.9%を占めています。自営農業従事者の従事形態としては、年間 150 日以上従事している農業専従者が全体の 76.7%を占めています。

3. 農業所得の状況と目標

農産物の販売所得(加工を除く)は、現状では、15 万円未満・所得なしが 32.3%，200 万円以下が全体の約 9 割となっています。目標(およそ 10 年後)所得では、200～300 万円層が最も多く、200 万円以上を目標とする経営体が 65.5%あります(表 1)。

表 1 農産物による現在の所得と目標所得

金額	単位：戸	
	現在	目標
総数	31	29
販売・所得なし	6	-
15万円未満	8	1
15～50	4	4
50～100	3	1
100～200	6	4
200～300	3	10
300～500	1	2
500～700	-	5
700～1000	-	1
1000万円以上	-	1

4. これからの取組み

経営調査では、このほか農地の流動化、今後の営農意向などもお聞きしています。流動化については、農地を拡大したい面積に対して農地を貸し出してもよいという面積が少ないため、需給ギャップがあります。また、「農業収入拡大」や「新しい農業への挑戦」などには積極的な回答が多くありました。

今年度は、基本構想に基づく認定農業者の認定作業を開始します。これらのデータを活用し、経営指導に役立てます。 <谷藤>

～ 着任・新任職員の紹介 ～

ますや こうじ
舩屋 浩二 畜産指導所所長



4月に森本所長から交代しました。平成18年から2年間畜産指導所に勤務していましたが、今回縁あって再び小笠原に来ることが出来ました。畜産物の価格低迷や口蹄疫・鳥インフルエンザなど畜産を取り巻く状況は厳しいですが、前回の経験を活かしながら小笠原農業の振興に役立つよう業務を頑張っていますのでよろしくをお願いします。

さとう すみと
佐藤 澄仁 営農研修所所長



小笠原とは縁があるのか3度目の赴任となりました。これまでの亜熱帯農業センターとは異なり、試験研究だけではなく普及指導活動が主体の営農研修所です。亜熱帯農業センターで開発され技術や新しい資材・品種の情報発信を行っていきます。また、初めて赴任した24年前、小笠原農業の先代から教わった知恵を若い農業者の皆さんへ伝えていこうと思います。前任の菊池所長の路線を崩すことなく、熱帯・亜熱帯果樹の普及に努めたいと考えています。「畑をみて売るのではなく、消費者目線で栽培をする」小笠原農業をより一層進めていきましょう。

おおい やすよ
大井 康代 非常勤農芸員



この度、非常勤の農芸員となりました大井康代です。

海と自然が好きで小笠原に住み、在島歴は20年となりました。いろいろな職を経て、今回、農業センターの一員となりました。まだまだ勉強することがたくさんありますが、農業センターの仕事を通し、小笠原の農業の振興に少しでも役に立てるよう頑張りたいと思います。

農業センターの研究・実証展示分担が決まりました。所長の**金子**は全体の総括（他にレイシ・遺伝資源の保存と展示）、**馬場**は熱帯果樹担当（マンゴー・アテモヤ・ホワイトサポテ）、**谷藤**は野菜担当（他に花き観葉類・農家経営）、**近藤**は病害虫担当（他にカンキツ類・香辛料作物）、**宗**は小笠原固有種担当（他にパッションフルーツ・ゴレンシ・ジャボチカバ・コーヒー）と当ニュース編集担当となりました。よろしくお願ひ致します。

平成22年3月31日付けで亜熱帯農業センターの**佐藤和美**は定年退職しました。また、4月1日付けで**菊池豊**営農研修所所長は中央農業改良普及センター西部分室へ、**森本直樹**畜産指導所所長は（財）東京都農林総合研究センター青梅庁舎へ異動となりました。

.....長い間お世話になりました。.....

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。



検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース